

## アイドル番組の駅伝ヒット祈願で、センターのメンバーが野外脱糞の悲劇

「お腹痛いかも」

ヒット祈願の駅伝を走っている 16 歳のメンバーが走っている速度を落としながら言った。

「大丈夫？」

一緒に走っている、このグループのキャプテンのメンバーが心配そうに声をかける。

「大丈夫？一旦、看護師の人に来てもらおうか」

私も後ろから声をかけた。

アイドル番組のデビュー曲のヒット祈願で、駅伝が行われている。

それぞれ駅伝のコースの途中にある神社などで、ヒットの祈願をしながら、走っていくというものだった。

120 キロほどある駅伝のコースを、7 区間に分かれて、アイドルグループのメンバーがそれぞれ走る。

私は、この地域で長年、長距離走のランナーをしている。

地域の大会でも理事を務めている関係で、このアイドルグループが駅伝のコースを走る際に、サポート役として、後ろをついて走ることになった。

私は、正直、もう 40 も越えているし、最近のアイドルグループのことは知らない。

それでも、このグループのアイドルの子たちは、みんな割と礼儀正しくて好感が持てた。アイドルなので、みんなもちろんかわいい。これほどの美少女を街で見かけることはそうそうない。そんなレベルの美少女がわんさかいるのだから、興味はなくてもテンションは上がった。

私は1区からずっとメンバーの後ろをついて走っていたのだけれど、ペースは遅いので、それほど疲れなかった。ただ、長距離を走り慣れていないメンバーにはかなりつらかったと思う。最終の6区までは、大きな問題はなく、ペースよく走ることができていた。最終の7区で走るのは、このデビュー曲でセンターを務める小山菜奈ちゃんと、このグループのキャプテンの佐々山久美子だった。このセンターの小山菜奈ちゃんはやはりセンターというだけあって、ひと際かわいかった。まだ16歳なので、子供ではあるけれど、どこか大人びた雰囲気も持っている。一目見ただけで、正直心が奪われてしまった。そんなかわいい菜奈ちゃんと17キロを一緒に走れるので、私は思いのほかテンションが上がっていた。でも、その最終7区で事件が起こってしまった。前半の8キロぐらいまでは、ペースもよく、順調に進んでいた。でも、その後、明らかにペースが落ちてきた。

そして、いよいよ菜奈ちゃんが止まってしまったのだ。

「お腹が……。痛い」

菜奈ちゃんが伏し目がちにそう言った。

一旦、完全に止まって、車で控えていた女性の看護師に見てもらうことになった。

番組のスタッフが走っているメンバーと私に並走するようなかたちで、車で付いてきているのだ。

番組のスタッフもけっこう多い。

ADのような人が4人くらいいたし、このアイドルグループのマネージャーの何人かいた。

当然、メンバーたちの前を撮影しながら後ろ向きで走っているカメラマンもいる。

このカメラマンもかなり大変だろうとは思う。

そんな関係者たちがみんなで心配そうにしていた。

一旦、看護師と菜奈ちゃんだけが並走していたワゴン車の中に入ってしまった。

「心配ですね」とキャプテンの佐々山さんが私に話しかけてきた。

「そうだね」と私が答えた。

私はおそらく生理だろうと思っていた。

私は女性ランナーの知り合いも多いが、生理の日と大会の日が重なってしまった際などは、大変だとなんとなく聞いたことがある。

でも、そんなこと、大っぴらに言うものじゃないし、男の私にはわからない。

「もしかしたら、別のメンバーに変わる可能性

があります」

番組のスタッフにそう耳打ちされた。

その方がいいような気がしたけど、菜奈ちゃんともう走れないのかもしれないと思うと少し残念な気持ちもあった。

5分ほど経過して、菜奈ちゃんと看護師がワゴン車から出てきた。

「お腹が冷えちゃったみたいです」

女性の看護師がそう言った。

スタッフたちが顔を見合わせている。

その後、話し合いが始まり、私も一応、その話し合いに参加することとなる。

「どうやら、トイレに行きたいっぽいです」

「マジカー」

「トイレなんて、このあたりにありますか？」

私にそう尋ねられた。

「いやー、ないですね。ご覧のとおり、国道があるだけで、店とか、コンビニすらないところですから。民家もほぼないですね」

この道は、山の中なので、国道が通ってはいるものの、本当にその国道しかない。

そもそも車道なので、歩行者や自転車の人ほぼいない。

今いるところから、一番近いトイレがある場所は、まだまだ相当離れている。

「どうしましょー」

スタッフたちが困っていた。

私は傍らで、中腰の態勢で背中あた리를押さえながら、沈んだ顔を浮かべている菜奈ちゃ